農作業安全（刈払機の操作）について

西部農業事務所
普及指導課農畜産指導係
加部　武

独立行政法人国民生活センターの報道発表資料によると医療機関ネットワークには、刈払機に関する事故情報が平成22年12月から平成25年３月までに34件寄せられました。

事故事例を状況別に分類したところ、「作業中刈刃による事故が」半数を占め、「飛散物による事故」が次に多く、「刈刃に草などが絡まった際の事故」や「転倒時の事故」という事例がありました。（図１）

図１　刈払機による事故状況別の分類

1 事故概要

① 刈刃による事故

チップソーなどの金属製の刈刃を使用した場合、刈刃の先端から右側の部分が、樹木などの障害物や地面に接触すると、刈払機ごと刈る方向とは反対側に強く跳ね返されることがあります。写真のような現象を「キックバック」といいます。キックバックにより周辺で作業していた人や本人の右足をケガする事故が発生しています。

写真　キックバック

② 飛散物による事故

刈払機は、刈刃による飛散物から使用者を防護するために、飛散防護カバーを所定の位置に取り付けることになっています。しかし、草が絡まりやすくなるなどの理由から、飛散防護カバーを取り外して作業する場合があります。飛散物により事故にあう危険性が高まります。特に目を痛めるケースが見られます。

③ 刈刃に草などが絡まった際の事故

エンジンを切らずに絡まった草を取り除こうとした場合、草が取れた途端に刈刃の回転が再開し、手を受傷する事故が見られます。

④ 肩掛けバンドを装着していない状態での転倒事故

肩掛けバンドを装着していない状態で転倒した場合、刈刃が容易に身体に触れることがあります。

2 草刈り作業から身を守るために

① 長袖、長ズボンを着用し、保護メガネなどの保護具を身につけましょう。

② 刈刃によるキックバックや飛散物など機械特有の危険があります。取扱説明書をよく読み使用方法や危険性を十分理解してから、使用しましょう。また、高所の枝払いなど目的以外で使用することは、やめましょう。

刈払機は、右から左に操作し、刈刃の1／3部分のみで刈ります（図２）。チップソーなどの金属の刃を使用して左右に振るような往復刈りを行うと刈刃の右側に障害物が接触し、キックバックが生じる危険が高まります。

図２　刈払機の操作及び刈刃の使用範囲

③ 刈る草が柔らかい場合や作業場所が構造物周辺の場合は、キックバックが生じないナイロンカッターの使用を検討しましょう。

④ 作業前に周囲に人がいないことを確認しましょう。作業中の人には、近づかないようにしましょう。飛散する危険がある小石や空き缶などの障害物は事前に片付けましょう。

⑤ 作業中、刈刃に草などが絡まったときは、必ずエンジンを停止し、不意に刈刃が作動しないようにしましょう。

⑥ 作業中は、適正な長さに調整した肩掛けバンドを必ず装着しましょう。足場の悪い場所や急傾斜地での作業は、鎌など手工具の使用も検討しましょう。

（独立行政法人　国民生活センター　報道発表資料抜粋）

平成25年度に本県で発生した農作業事故は7件であり、西部管内も2件の事故がありました。農業機械別では乗用トラクターで3件、田植機、コンバイン、歩行型トラクター、糞尿処理施設が1件であり、7名全員が65才以上と高齢者が中心となっています。取扱説明書を確認して農作業事故の防止に努めましょう。

乙女座　8/23〜9/22
（全体運）やる気が高まっています。読書をすることで意外な発見や驚きがありそう。ネットサーフィンもお勧めです
（健康運）腰が重くなる月。適度に体を動かして
（幸運を呼ぶ食べ物）スイカ